

<ねらい>

- ・ ロールプレイを通じて児童労働（家事使用人として働く少女）には複雑な背景※があることを知る。 ※児童労働の背景には貧しさだけでなく、子どもが働くことが当然と考える文化や親の知識不足なども関係する。
- ・ 少女、少女の周辺にいる人たちの考えや思いを知る。

<すすめ方>

- ① グループ分けをし、ロールプレイシナリオのカードを配る。ロールプレイの役割を分担し、自分の役のシナリオを読む。
*それぞれの役割ごとに集まり、役割の発言の背景や内容について話し合うとより深まる。
- ② 父親が司会をし、グループでロールプレイ(読み合わせ)をする。
*前半は役割の設定にそって主張する。後半は問題解決のため、話し合いを行う。ほかの人の意見を聞いて、自分の考えを変えてもよい。
- ③ ロールプレイを通して、気づいたことや感想を各自書き出し、話し合う。問題解決のためのアイデアを出し合ってもいい。
 - ・ それぞれの役を演じてみて感じたことや印象に残ったこと
 - ・ ロールプレイ全体から気づいたバングラデシュの社会状況、子どもたちを取り巻く状況、文化の違いなどについて

書籍名：わたし8歳、職業、家事使用人。(合同出版)

著者：日下部尚徳(著) 藤崎文子・京井杏奈・藤岡恵美子(執筆協力)

バングラデシュには、「家事使用人」と呼ばれる子どもが42万人います。よその家に住み込み、雇い主やその子どもたちのお世話をします。他人の家の家事をする多くの子が10代の少女たちです。中にはまだ10歳に満たない女の子もいます。世界にいる1億5200万人の児童労働者のうち、家事使用人として働かなければならない女の子のきびしい現実、直面する問題や課題、私たちに今なにができるのかを紹介します。



特定非営利活動法人

シャプラニール＝市民による海外協力の会

お問い合わせ先

〒169-8611 東京都新宿区西早稲田2-3-1

TEL: 03-3202-7863 / FAX: 03-3202-4593

MAIL: event@shaplaneer.org